

JIS規格に透湿ルーフィングが追加 普及・拡大の弾みに

透湿ルーフィング協会

セーレン、ナガイ、フクビ化学工業が正会員として加盟する透湿ルーフィング協会は、屋根用透湿防水シートのJIS規格制定に関する発表会を開催した。

2016年8月、透湿防水シートのJIS A6111が改正され、従来の「外壁用」に加えて「屋根用透湿用透湿防水シート（透湿ルーフィング）」が加わった。新たなJIS規格の策定に当たっては、とくに透湿ルーフィングを使用する住宅事業者などから釘穴止水性について懸念する声が多かったことを受けて、「くぎ孔止水性」という性能を追加。くぎ孔からの雨漏れが「一定量以下で止まる」ことを規定。釘穴止水性を把握するための試験方法とクリアすべき性能を明確にした。



「透湿ルーフィングのJIS制定を機にさらなる普及につなげていきたい」と語る同協会の杉田会長

そのほか、住宅の長期使用のニーズに対応して、透湿ルーフィングの耐久性に関する性能の確認方法についても、既存の「10年相当」に、「30年相当」「50年相当」を加えて拡充を図った。すでに正会員3社は、それぞれが販売する製品について自社試験で50年以上の耐久性を有していることを確認。公的機関による耐久性試験を経て2017年内にその結果を公表する予定。現在、戸建て住宅のルーフィング材で透湿ルーフィングのシェアは5%弱にとどまっている。同協会の杉田会長は「アスファルトルーフィング

に比べて透湿ルーフィングは非常に軽量であるため、高所でより安全に取り扱える。これにより作業時間の短縮、コスト削減にも寄与する。今回のJIS制定により明確化された性能とともに、透湿性、軽量性、施工性といった透湿ルーフィングならではの特長をアピールして今後3年で11%までシェアを伸ばしたい」と語った。

J-Kフェアでシンポジウムを開催 LVLの中大規模木造用途をPR

キーテック

東京ビッグサイト（東京都江東区）で3月17日と18日に開催された第37回ジャパン建材フェア内で、「木質構造の未来～LVL板構造、木造耐火建築の実例解説とともに～」と題したシンポジウムを開催した。

17日は「東京ゆりかご幼稚園園十里山教育」をテーマとして東京ゆりかご幼稚園の設計に携わった渡辺治建築都市設計事務所の渡辺治所長とリズムデザイン・モヴ・構造デザインの中田琢史氏が登壇。18



ブースでは、ロングスパンを飛ばせるストレスキンパネルを展示

せる木質製品の認知度は途上だと感じる。採用とともに認知されていけば、ニーズが高まる中大規模木造でのLVL製品の需要は確実に増えていくだろう」（渡辺氏）。

遮音性に優れた木製防火引き戸を開発 星のや東京に納入

阿部興業

高い遮音性能と遮炎性能を備えた木製防火引き戸（有効開口幅1200ミリ・ポケット式（両戸袋式））と木製防火ドアを開発し、2016年7月に東京・大手町に開業した日本旅館「星のや東京」に納入した。

日は、マウントフジアーキテクトスタジオの原田麻魚代表取締役と原田真宏主宰（芝浦工業大学教授）が、「海辺の家」について紹介・解説した。両日とも、アーキテクトカフェ・田井幹夫建築設計事務所の田井幹夫氏をモデレーターとして、キーテックのLVL製品を使用したそれぞれの物件のコンセプトや、LVL製品の選択理由・メリットについて解説しながら、意見が交わされた。

「東京ゆりかご幼稚園では、キーラムメガビームを採用した。低コストを実現しながら大スパンを飛ばせ、簡単に施工できるので工期の短縮にもつながるといって特長をもつ。実際の建物の大きさを見せると木造だと信じてもらえない場合もあり、大スパンを飛ば

前者には、バリアフリー対応遮音性能T1等級、後者には同T3という優れた遮音性能を付与した。木製防火ドアの高さは2700ミリ。この高さ確保し、さらにT3レベルの遮音性能を満たす防火ドアは国内初の製品となる。

「宿泊客の『安心』と『安全』を追求する星のや東京さまの要望に、当社の技術力が応える形で実現に至った」（同社）としている。